
 学 校 名 岐阜県立中濃特別支援学校

校 長 小 栗 一 宏

学校住所 関市桐ヶ丘2丁目3番地

電話 0575-24-1773

1 会議の名称 岐阜県立中濃特別支援学校を支える会

 2 会議の構成 評議員 福島 房子(欠) (株)フクシマ化学 取締役会長
 大須賀 敏 (社)関青年会議所 理事長
 植野 明 向山町長寿会 会長
 菊池 啓子(欠) 中部学院大学短期大学部 教授
 須甲しのぶ 岐阜県立ひまわりの丘 第一学園次長

 学校職員等 小栗 一宏 校長
 中嶋 なをみ P T A 会長
 加藤 和宏 事務部長
 山下 雅樹 教頭
 大前 裕子(欠) 小学部主事
 高木 茂和 中学部主事
 高山 務 高等部主事
 今井 滋行 分教室主事
 河合 浩司 教務主任

3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を求め、教育活動の活性化につなげるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進することを目的とする。

 4 会議の開催 日 時：平成27年6月16日(火) 13:00~15:00
 会 場：関特別支援学校内高等部分教室
 出席者：学校評議員3人、学校職員等9人

 5 会議の概要 (1) 学校評議員の委嘱
 (2) 学校長挨拶
 (3) 自己紹介
 (4) 分教室見学及び授業見学
 (5) 平成27年度の学校概要
 (6) 各学部における本年度の教育活動の重点
 (7) 「作業製品の価格設定」について(承認)
 (8) 意見および提言

 6 ご意見

意見1：子どもたちが製品を作り、売ったことに対する見返りがあることで、喜びや働く意欲につながっていくものと思う。

意見2：製品の値段が安いと感じるものもある。高く売れるとよい。子どもたちの労力に対しての励ましの買い物という意味合いもあるが、賛同してくださる方々がどれだけいるかという点が問題となってくる。

意見3：作業製品に世間の皆さんが目を向け、興味関心を持って欲しいと思う。生徒の努力をPRしたいと思うので、イベント等があったら地域にも声をかけて欲しい。

意見 4 : 分教室を参観して、本校に比べて教室が広く子どもたちが伸び伸びと学習している様子が伺えた。

一方で、職員室を見ると机が隙間なく並べられていて、1つの机を2人で使っているようで、狭さや窮屈さを感じた。職員の皆さんが十分な力を発揮できるような環境改善を望む。

意見 5 : 分教室では広々としてゆったりとした空間の中で頑張っている姿を拝見し、感心するやら感動するやら、胸がいっぱいになってきた。

意見 6 : 就労を目指す施設での就労に関わる実習では、今日の参観した授業に比べ、さらに厳しくやっている。

本当は周りの人々に障がいについてもっと理解してもらいたいが、現在は障がいの無い人と同じように力を求められてしまうことがあるように思う。

障がいのある人が作ったというだけで製品が売れた時期があったが、現在では一般のものとは比べて見劣りすることのないものを作るよう製品の質を上げていくことが障がい者の理解にとっても重要となっている。

意見 7 : 長寿会では小学部の皆さんと交流を行っている。そこで年々大きくなっていく姿を見せてもらい、子どもたちの成長を実感している。長寿会の男性はスポーツ競技に参加する人が多く、小学部の皆さんとの交流は女性が主体となっている。今後も交流を続け、皆さんの励みになればよいと思っている。

意見 8 : 交流活動や運動会、学校祭などの行事に参加してみると、先生方がたいへん努力して教育活動にあたっているのが分かる。

7 会議のまとめ

本年度新たに中濃特別支援学校は、関特別支援学校内に分教室を設け、高等部の一部の生徒25人と職員15人が分教室で学習をしている。この状況を評議員の皆様にご理解いただく良い機会となり、ご意見も拝聴できた。

授業見学をしていただいた中では、授業一般ではなく就労に対して更なる厳しさを求められるご意見があり、真摯に受け止めたい。

また、作業製品についても、現在は更なる質の向上が求められているというご指摘を受け、中濃特別支援学校の作業製品に対して販売という視点を持って質の向上を図っていきたい。

このような貴重なご意見をいただき、今後の学校運営に生きる貴重な会議であった。